

今回のインタビューは、町内や安芸区の児童館で紙芝居を通して、子どもたちに命の大切さやルールを守ることなどを教えておられる権藤義輝さんにお話を伺いました。

聞き手／多田雄一委員



ごんどうさんの紙芝居、はじまりはじまり～

子どもたちに夢を与える

ごんどうさんの紙芝居

ごんどう
権藤 義輝さん

活動を始められたきっかけは何ですか。

二 十三年前に窪町で居酒屋を開業し毎日来店してくださる地元の人に、還暦をきっかけに恩返しをしたいと思ったことです。

いつ頃から活動をされていますか。

三 年前の二月に海田東児童館で、第一回目をやりました。以来、現在までで二百回を超えるに至りました。

なぜ紙芝居なのですか。

私 が子どもの頃、紙芝居から生きる上での大切なことを教わりました。だから、今の子どもたちにもそれを伝えてあげたいと思ったのです。

最近の活動状況はどうですか。

月 に六から八回のペースで各児童館や地域の催しに参加しています。最初は詩吟の仲間と二人でしたが、現在は同じ趣味の方も加わって面白い、三人で公演しています。

活動していて嬉しいことは何ですか。

そ れは何と言っても子どもたちの笑顔です。今の子どもたちは、

テレビやゲームなどに慣れすぎていて、紙芝居が新鮮なのでしょ。食い入るように紙芝居を見つめ、顔を輝かせながら話に聞き入ってくれています。終わった後で抱っこしてくれとたくさん子どもが来てくれることも嬉しいのです。お礼の手紙もたくさんもらっています。

今後はどのような活動をしたいとお考えですか。

現 在でも紙芝居の前に、交通安全のこと、元気にあいさつしよう、また、いじめをしないことを繰り返し話してい

ます。少しでも子どもたちの心に残ってくればと思っています。

また、この活動を県下全域に広げていきたいと考え、すでに各地のボランティアの方と連携をして、人材を育てる計画をしています。

これからも、子どもたちの笑顔からエネルギーをもらって、ますます頑張っていきます。

これからも子どもたちをよろしくお願ひします。本日はお忙しい中ありがとうございました。



いつも3人で活動しています